

令和5年度 第3回名取市男女共同参画推進委員会 会議録

1 日 時 令和6年1月18日(木) 13:30~14:15

2 場 所 市役所6階 第3会議室

3(委 員) 寒河江和樹委員長、岩沼裕子委員、佐藤莉委員、小野寿昭委員、
柴田力夫委員、星眞奈美委員、村上寛子委員

(欠席委員) 高橋真佐子副委員長、相原直之委員、佐藤繁樹委員

(事務局) 浅野課長、川上課長補佐兼係長、清野主査

4 会議内容 別紙、会議資料のとおり。
次第に沿って、要点記録により作成する。

第3回名取市男女共同参画推進委員会

1 開 会 司会進行:川上課長補佐兼係長

2 委員長あいさつ 寒河江委員長

3 議 題

報告事項

(1)令和5年度事業報告について

【資料1】【資料2】に沿って事務局から説明を行った後、令和5年度事業や男女共同参画情報紙について各委員より、下記のとおり意見があった。質疑等はなし。

委 員:

男女共同参画情報紙について、広報紙として手元に届いた時、わかりやすく仕上がっていてとても良いと感じた。

委 員:

情報紙の色づかみやデザインが現代にあうようアレンジされていて見やすく、第2回委員会で自分が出した意見もしっかり反映されていると感じている。

委 員:

大変わかりやすい情報紙になったし、読み手側にとって「すぐには難しいが、こういう社会になっていけばいいな」と感じとれる内容になっていると思う。

委 員:

情報紙の作成については、第2回委員会でさまざまな意見が出た。それらの意見が反映されていると思う。男女共同参画推進委員会について、今後とも活発な意見交換が行われる場であってほしい。

委 員:

情報紙をぱっと見た時、まず目につくところにランドセルのイラストがきていて、読み手に身近なイメージを与える構成となっていた。男女は生物的に異なると考えているが、ランドセルの色や家事分担など、あらゆる場面で男女別の考え方がなくなってきていると改めて感じる内

容であった。

委員：

私には小中校生の子どもがいるが、どちらも読んでみてわかるような内容となっていた。性別で分ける考え方は、小中校生の世代ではだいぶ薄くなってきているようで、教育現場でもそういう配慮があるようだ。来年度、子どもの通う学校で制服が変わり、女子生徒もスラックスを選択できるようになっているが、それを歓迎する雰囲気がある。考え方が世代ごとに変化していると思う。

委員長：

情報紙については、目にとまりやすい記事デザイン、一目で啓発内容がわかる構成となっていて良かった。男女共同参画の理念として“互いの違いを承認し合うこと”があるが、性別や年齢、性的指向など、それぞれの個人が持っている価値観や生き方は違っているものであり、それらをわかり合おうとするきっかけになる啓発活動については、継続していくことが必要である。

4 その他

事務局から下記2件のお知らせを行った。

- ①【資料3】令和5年度 性的マイノリティに関するアンケート調査
- ②令和6～7年度 名取市男女共同参画推進委員の公募について

①について、【資料3】に沿って事務局から説明を行った後、【資料3】の内容や令和4～5年度の委員会活動について、各委員から下記のとおり意見があった。質疑等なし。

委員：

人権擁護委員としての活動の中で、男女共同参画推進委員も引き受けている。この委員会活動の中では、また違った角度で男女共同参画社会について考えることができて大変勉強になった。

委員：

委員の皆さんからの意見を聴いて、毎回勉強になることが多かった。この場に参加できてよかったと思う。

委員：

自分は昭和の人間なので、“男らしさ、女らしさ”という考え方があるのは当然のことと思っていたが、この委員会に参加し、そういった言葉を使わなくなった。自分自身の意識改革につ

ながったと感じている。所属する交通安全団体のことを例に挙げると、女性がほとんどおらず、地域や団体などでは男性中心の社会、考え方がまだまだ残っていると思う。こういった部分に対しても地道に意識改革を促していくことが大切である。

委員：

私が小さい頃、「女男」という言葉があったり、中性的な男性を区別したりするような風潮があった。そういった旧来の性別ごとのイメージにとらわれない存在が、昨今急激にメディアや社会に増えてきており、時代の変化を感じる。女性が自衛隊のパイロットになり、昔に「女男」と呼ばれていた存在が社会で当然のように受け入れられるようになったが、いまだに天皇は男性しかならず、助産師は女性だけである。私個人としては、生物としての適性や能力差がある部分を見ると性差による区別が残っても良いと考えるが、その部分も許さないと考えるのか、ここまで男女共同参画が進んだと考えるのかで、今後の取組方針は変わってくるのではないかと思う。

委員：

性的マイノリティについて、社会的に関心が高まっており、個人でも無関心でいられない課題だと感じている。男女共同参画の課題のひとつとして、自治体でも理解促進していく必要があると思った。

委員：

名取市に住んで17年以上経つが、この委員会に参加することが、市の取組を深く知る機会となった。一市民として、市がどんなことに取り組んでいるか知らない部分が多く、勉強になった。

事務局：

事務局として、令和4～5年度の会議の中で各委員からいただいたご意見を、次年度以降の男女共同参画推進委員会活動に生かしていけるように努めたい。

“②令和6～7年度 名取市男女共同参画推進委員の公募について”は、1号委員、2号委員の所属団体あてに後日、委員推薦依頼をお送りする。委員推薦へのご協力をお願いしたい。3号委員は再任可能であるため、よろしければ公募への申込をお願いしたい。

2年間の委員活動や市政へのご協力に対し、事務局一同、心より御礼申し上げます。

5 閉会

以上